Man is a Thinking Reed.

Reed

KANSAI UNIVERSITY NEWSLETTER

No.17
May, 2009

関西大学ニューズレター
発行日：2009年（平成21年）5月25日
発　行：関西大学 広報室広報課
大阪府吹田市山手町3-3-35
〒564-8680／ TEL.06-6368-1121
http://www.kansai-u.ac.jp/

THINK × ACT
KANSAI UNIVERSITY

■対談
松本 由理子（ちひろ美術館・東京 副館長 （財）いわさきちひろ記念事業団 事務局長）× 河田　悌一（学長）

絵本も教育も「感じること」が大切

絵本は文化や歴史の違いを超え、相互理解を可能にする

■リーダーズ・ナウ —5
在学生— 総合情報学部 3年次生・岡崎 正典さん
卒業生— 橿原考古学研究所所長　菅谷 文則さん

■研究最前線
ラテンアメリカの歴史や文学の継承を研究
詩の発展を通して世界を捉える —7
外国語学部 — 鼓 宗 准教授

結晶化により光学活性アミノ酸を得る研究
キラル分子の効率的な分離法を探求 —9
化学生命工学部 — 矢島 辰雄 助教

■トピックス［学内情報］
史実と史論の対話と相互補完の促進
ペリーの旗艦に登った松陰の「時間」に迫る —11

■社会貢献・連携事業／高大連携
高等学校と大学の深い絆「高大連携」—13
大学と地域社会が相互に支え合う未来へ

■関大ニュース —15
コミュニケーション・マークとタグラインを策定 ほか

■対談

絵本も教育も「感じること」が大切

絵本は文化や歴史の違いを超え、相互理解を可能にする

松本 由理子　◆ちひろ美術館・東京 副館長
㈶いわさきちひろ記念事業団 事務局長

河田 悌一　◆学長

いわさきちひろの没後3年目に産声を上げた
ちひろ美術館は32年目を迎え、
ちひろの作品9400点を含む
世界の絵本画家の作品2万6500点を所蔵する
絵本美術館に成長した。
東京と長野の2ヵ所の美術館には、
いわさきちひろが絵本に懸けた思いや
子どもに託した願いが結実している。
ちひろ美術館・東京の
松本由理子副館長(本学客員教授)と
河田学長が語り合う
「絵本と過ごすかけがえのない時間の豊かさ」。

◆真っすぐなまなざし、清楚な姿、やわらかな声

河田　関西大学で学ぶ多くの学生も、いわさきちひろさんのほのぼのとして心温まる絵本や挿絵などを見て育ってきたと思います。いわさきちひろが亡くなったのが1974年の8月8日。今年で35年になりますが、その絵は少しも古びていないどころか、ますます輝きを帯びてきているようです。

関西大学では夏に理事会を白馬栂池高原ロッジで開催し、その帰りに安曇野のちひろ美術館を訪れることを恒例の行事にしています。理事の方々も、心が洗われるような、いわさきちひろの絵が大好きです。そうしたきっかけで、松本由理子さんとお知り合いになり、2年前から本学の客員教授を務めていただいています。

まず、いわさきちひろさんとの出会いや、そのときの印象からお聞かせください。

松本　私がいわさきちひろに初めて会ったのは1973年、21歳の大学生のときでした。当時はベトナム戦争の最中で、世界中でベトナム反戦運動が広がっていました。キャンパスの中でも反戦を語り合う学生も多く、その中の一人に誘われて遊びに行った家で、「おふくろがいるから紹介する」と言われて通されたのが、今、ちひろ美術館・東京に復元されている、ちひろのアトリエだったのです。

ドアをノックし、「どうぞ」というやわらかな声に誘われて部屋の中に入ると、絵筆を止めて、私のほうに視線を向けてくださった。茶色がかった澄んだ瞳が、やさしく微笑んでいた。もの静かで優雅なのに、少女のような雰囲気がある。真っすぐなまなざしと女学生のような清楚さが印象的でした。

部屋には、彼女の絵が使われたポスターが貼られ、ピアノの上には、オリジナル作品が額に入れられて何点か置かれていました。「可愛いな、なんてきれいで、透明感あふれる絵なんだろう」と思いました。ただそれだけだったら、「こういう絵を描く人もいるんだ」で、終わったかもしれません。ところが、画机の上に目をやったとき、ベトナム戦争の衝撃的な写真や新聞記事が目に飛び込んできたのです。

こんなに控えめで反戦運動と無関係そうに見えるこの女性も、ベトナム戦争に関心をもっているんだとびっくりして、彼女の顔と資料の間に目を泳がせていたら、彼女が奥の和室に連れていってくれたのです。そこには絵本『戦火のなかの子どもたち』のために描かれた原画が畳一面に並べられていました。呆然と立ちすくむ少年、迫りくる炎をにらむ、赤ちゃんを抱いた母親、見る者の心を射抜くような少女の悲しげな瞳。心臓をわしづかみにされた気がしました。この人はどうしてこんな表現ができるのだろう、この人はいったいどんな人生を歩んだ人なんだろう。そのとき、いわさきちひろという人にものすごく興味を持ってしまったんです。

◆「二階だけが家庭。階段を下りたら社会」

河田　それから約1年後、一人息子の猛さんと学生結婚され、その2カ月後にちひろさんは旅立たれたのですね。人びとの心に残る大きな仕事をなさったいわさきちひろの最期はどんな様子でしたか。

松本　入院中は家族が交代で付き添っていたのですが、8月8日は私と姪御さんが病室の当番でした。お昼ごろ大量下血し、心臓が止まる直前、ちひろは「まだ死ねない」と言ったように、私には聞こえました。享年55歳でした。

7月ごろから急激に悪くなり、水一滴飲むこともできず、痛みと吐血・下血に苦しんでいたのに、「夏(のお葬式)は(暑くて)来てくださる方が気の毒で申し訳ないわ」と気遣っていました。自分のつらさを口にしないで、いつも周りの人のことを考える人でした。

入院中、「こんどこそ、無欲の絵が描きたい」と言っていました。ちひろの夫は7歳半年下で、当時48歳。野党第二党の国会対策委員長で、多忙を極めていました。23歳の一人息子の他に、73歳の夫の母親、脳梗塞で倒れ半身不随の83歳のちひろの実母も同居し、住み込みや通いの手伝いの人もいるという大家族で、ちひろは精神的にも経済的にも、一家の支え手でした。彼らを残して死ぬことなどできない、何より、まだまだ、本当に描きたいものを描ききれていないという思いがあったのではないでしょうか。

ちひろは自宅で絵を描き続けた人でした。家は家族が暮らす場であると同時に、ちひろの仕事場でもありました。家族の一員となった私に、「二階だけが家庭なの。階段を一歩下りたら、そこは社会よ」と話してくれたときの、ちひろの表情が忘れられません。

◆日本から失われたやさしさや、美しさを描く

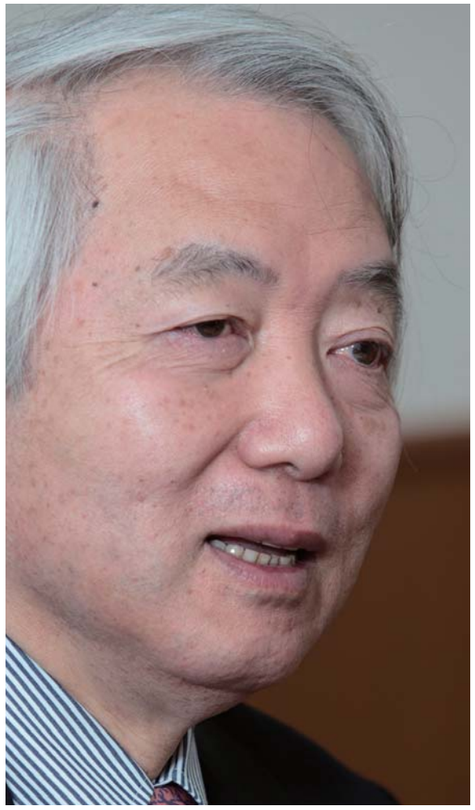
河田　その後、松本さんは美術館を開設・運営し、ちひろの業績や人となりを語る、いわゆる語り部として活動してこられました。ちひろは絵のほかにも、素晴らしい言葉を私たちに残してくれています。

「どんどん経済が成長してきたその代償に、人間は心の豊かさをだんだん失ってしまうんじゃないかと思います。私は私の絵本のなかで、今の日本から失われたいろいろなやさしさや、美しさを描こうと思っています。それを子どもたちに送るのが私の生きがいです」

これはまさに現在の日本や世界に通用する言葉で、今の時代を見越し、日本の社会を見通していた、すごい人だなぁと思います。

松本　その言葉、ちひろの原点だと思います。ちひろは、人びとがいちばん身近に接する絵こそ、芸術として素晴しいものであるべきだ、そんな絵や絵本を描きたいと願っておりました。

高槻ミューズキャンパスでは、小中高一貫教育を行います。
感じることの大切さ、
情操教育を重視していきたいと考えています。



河田 悌一(かわた　ていいち)
1945年京都市生まれ。大阪外国語大学中国語学科卒業。大阪大学大学院で中国哲学を専攻。86年関西大学教授。文学部長、副学長を歴任し、2003年10月学長に就任。1991年に在外研究員としてプリンストン大学で中国思想史を研究。文部科学省中央教育審議会臨時委員。同省大学設置・学校法人審議会委員。社団法人日本私立大学連盟常務理事。財団法人大学基準協会副会長。独立行政法人日本学術振興会大学教育等推進事業委員会委員。著書に『中国を見つめて』『書の風景』など。

成功することよりも、傷ついたりつらいことがあったり、
願ったことがうまくいかなかったりすることによって、
人間はいろんなことを感じとれるようになると思います。

松本 由理子(まつもと　ゆりこ)
1952年生まれ。東京芸術大学音楽学部楽理科卒業。いわさきちひろの没後、ちひろの長男・松本猛氏と共に、ちひろ美術館建設に取り組む。近年は講演や執筆活動を通し、ちひろとちひろが絵に託した思いを語り続ける。ちひろ美術館・東京副館長。㈶いわさきちひろ記念事業団事務局長。関西大学客員教授。『ちひろの世界』『ちひろ美術館ものがたり』『いわさきちひろ・若き日の日記「草穂」』など、多数の著書・編著がある。

◀「わらびを持つ少女」（いわさきちひろ・作）

病床でも、自らを「たくましい、人をふるいたたせるような油絵ではなくて、ささやかな絵本の絵描きなのである」と記しています。「そのやさしい絵本を見たこどもが、大きくなっても忘れずに心のどこかにとどめておいてくれて、何か人生のかなしいときや、絶望的になったときにその絵本のやさしい世界をちょっとでも思いだして心をなごませてくれたらと思う」と。

河田　いわさきちひろの絵が普遍性をもち、生きていて、今なお人びとに共感されるのは、そういうところにあるんでしょうね。

◆自分の想像を膨らませる「感じる絵・絵本」

河田　彼女の絵が今も生命をもっているのは、すごくハイカラだということもあると思います。バックがアンデルセンの世界のような海辺や花々、デンマークやドイツみたいな街並みです。また、輪郭線を描かず、絵筆を6割で止めているので、残りは見る人の想像力に委ねられていて自由にイメージを膨らませることができると、松本さんはご著書の中でおっしゃっていますね。

松本　ええ。この絵（**写真上・「わらびを持つ少女」**）も髪の毛に色は塗られていないですよね、目も、瞳だけが描かれていて、眉も白目も描かれていない。描かれてないがゆえに、自分なりのイメージを膨らませる自由がいっぱい残されている。背景が白いままの作品も多いし、余白がいっぱいある。絵本も同じです。ちひろの絵や絵本は、知識を与えることが目的ではない。知るんじゃなくて感じるもの、見る人が想像を膨らませて「感じる絵」「感じる絵本」なんです。

今、知識や情報を教え込むことが教育と思われがちですが、世の中の物事には決まりきった正解があるとは限りません。自分で感じたり、感じたものから自分なりの思いを膨らませて人に伝えたり、あるいは、人の気持ちを思いやり、その人の気持ちになって考えられるということが、とても大切だと思います。

河田　関西大学が来年4月に開設予定の高槻ミューズキャンパスでは、小中高一貫教育を行います。先日、そのシンポジウムがあり、基調講演をしてくださった作家の重松清さんも、やっぱり同じことを話しておられました。知識を詰め込むのではなくて、人の痛みや悲しみ、つらさを感じることが大事で、そういうことに共感できる子どもをつくる教育が必要だ、と。今おっしゃった、感じることの大切さ、情操教育を重視していきたいと考えています。

◆心がきれいに、優しい顔になれる絵

河田　松本さんとは以前、山田洋次監督の映画「武士の一分」の試写会で隣同士になりました。関西大学の客員教授でもある山田洋次さんは、㈶いわさきちひろ記念事業団の理事長を務めておられます。世代を問わず、大勢の方がちひろの絵のファンです。現在、ちひろ美術館にはどれくらいの絵や絵本があるのですか。

松本　ちひろの死後3年目に、自宅跡に誕生したちひろ美術館・東京も32年目を迎えました。1997年には、ちひろの心のふるさとだった信州に、安曇野ちひろ美術館も開館しました。

美術館をつくるときに、単にちひろの絵を飾るだけの場所ではなく、絵を通してちひろが願ったことを受け継ぎ、それを感じとれる場にしたいと思いました。絵本って、子どもだけのものではないんです。大人と一緒に楽しむもの。絵本を読んでもらった記憶、ありますよね。大人と子どもが肌や呼吸を合わせながらコミュニケーションする、その時間がとても大切。「子どもが初めて出会う美の扉」でもあるのです。

そんな絵本の絵こそ素晴しい芸術であってほしいと願い、未来を生きる子どもたちに夢と希望を託し、個性豊かな絵を描く絵本画家が、世界にたくさんいらっしゃいます。私たちはちひろの絵に限らず、人類の大切な文化財である絵本の絵を散逸させずに収集・保存・研究・公開していきたいと考えています。今、ちひろの作品が9400点、世界中の作品を合わせると2万6500点になります。

絵本は言葉が分からなくても伝わります。言語という垣根を軽々と飛び越え、誰もが入っていける世界です。「子どもは、そのあどけない瞳やくちびるやその心までが、世界じゅうみんなおんなじだから」と、ちひろはよく言っていました。文化や歴史や宗教が違っていても、そこに絵本があって、子どもたちに愛情をもつ大人がいれば、相互理解が可能になります。世界の絵本画家の作品を見ることで、自分たちと違う文化や歴史、風土の中で生きる人たちに興味と共感をもってくれるとうれしいですね。

河田　ちひろ美術館を訪れたら、怖い顔をしていた人も、みんな出て来るときには優しい顔をしています。相田みつをの作品と似通ったところがありますね。やはり他人の痛みが分かり、つらいのを我慢して生きている人を慰めてくれるという共通点があるのです。

松本　昨年、相田みつをといわさきちひろが一緒になった『みんなほんもの』という本を作ったんですよ。

河田　「あなたのこころがきれいだから　なんでもきれいに見えるんだなあ」という相田みつをの詩があります。いわさきちひろの絵を見たら、心がきれいになる。あの絵に癒やされるというのは、たぶんこういうことなのではないでしょうか。

◆失敗してもいい「あなたがこの世にいることが喜び」

松本　いわさきちひろの絵って子どもしか描かれていなくても、画用紙の外側に、その子をすごく大切に思ってしっかりと見守っている大人の目があると思うのです。

ちひろは、「親からちゃんと愛されているのに、親たちの小さな欠点が見えてゆるせなかったこともありました」「大人というものはどんなに苦労が多くても、自分の方から人を愛していける人間になることなんだと思います」と、後年、記しています。

例えば、いい成績を取るから、いい学校に入れたから、何かができるから、だから自分は親に愛されているんだと、子どもの方が思ってしまっている。そうじゃなくて、何があっても、失敗をしようが何をしようが、あなたがこの世にいることが喜びなのよというメッセージが、ちひろの絵から伝わってくるんじゃないでしょうか。親御さんにお願いしたいのは、勉強が大切と思うのなら、子どもに強いるだけではなく、ご自身が、勉強なさればいいのではないかと。今は生涯教育の時代です。学ぶって楽しいことなんだって、逆に子どもが、本当の意味で勉強を好きになるかもしれない。

河田　そうなんです。関西大学は今後、小中高から大学、大学院の教育はもちろんですが、社会人教育にも力を入れて、一つのキャンパスの中で、「縦の関係」も大事にしたいと考えています。

松本　豊かで伸びやかな環境の中で子どもたちが学べるのは素敵なことですね。ただ、可能なら、「失敗をさせる教育」をしてほしいんです。小さな失敗をいっぱい重ねることが、どれだけ生きていくうえで大切か。成功することよりも、傷ついたりつらいことがあったり、願ったことがうまくいかなかったりすることによって、人間はいろんなことを感じとれるようになると思います。

今はあまりにも情報がありすぎるからか、若い人たちが自分を守るために、心に大きな壁を立てていて、自分の世界に他人が入ってくるのは苦手という人が多いようです。でも、関西大学の学生さんは、東京の人たちに比べると、本音で話している感じがします。

昨年の12月に、ちひろ美術館・東京に来られた関西大学の学生さんが、感想ノートにこんな言葉を記してくださいました。うれしくて、広報誌の『美術館だより』に載せたんですよ。

「今日は、建物見学が来館の一番の目的でした。この建物を見ている間、すごく穏やかな気持ちでした。自然・建築・ちひろさんの絵、１つ１つの関係性から生まれる時間を過ごせたからだと思います。絵や建築、いろいろなことで人が幸せな気持ちになれるものを創り出せることのすばらしさを、改めて実感しました。来年から設計の仕事をします。この建物に負けないくらい、素敵な建築を設計したいと思います」

河田　学長としては、掲載していただいたこともうれしいのですが、ちひろ美術館を訪れた学生（沖野正司君）が、こういう気持ちになって、明日に向かって自分の生きる目的を語ってくれたことに、とても感激しています。本日はどうもありがとうございました。

◉ちひろ美術館・東京（写真上）
ちひろが最後の22年間を過ごし、数々の作品を生み出した東京・練馬区下石神井の自宅跡に建てられた美術館。展示室では、約２カ月ごとにテーマを変えて、ちひろや世界の絵本画家の作品を紹介するほか、企画展も開催しています。愛用の品々とともに、部屋ごと復元したちひろのアトリエ、ちひろが愛した草花が咲く「ちひろの庭」、3000冊の絵本をそろえた図書室、こどものへや、カフェやショップも併設されています。
〒177-0042　東京都練馬区下石神井4-7-2

◉安曇野ちひろ美術館
長野県北安曇郡松川村は、戦後、ちひろの両親が開拓農民として暮らした土地。ちひろは折にふれてこの地を訪れ、心のふるさととして愛していました。館内には５つの展示室があり、いわさきちひろや世界の絵本画家の作品、絵本に関する歴史資料を展示しています。絵本の部屋、こどもの部屋、カフェやショップも併設。周囲には北アルプスを望む約32000㎡の安曇野ちひろ公園が広がっています。
〒399-8501　長野県北安曇郡松川村西原

ホームページアドレス　http://www.chihiro.jp/

LEADERS NOW!

■リーダーズ・ナウ［在学生・卒業生インタビュー］

学生自らの手で、独自の演劇世界を展開！

身体とことばを駆使して、表現の可能性を広げていきたい

◉演劇サークル「万絵巻」代表・総合情報学部 3年次生
岡﨑 正典 さん

高槻キャンパスを本拠地に展開する演劇サークル「万絵巻（よろづゑまき）」は、総勢43名。京阪神で活動している学生演劇サークルの中では比較的規模の大きい団体だ。彼らは年に5、6回の公演を、脚本・演出から大道具・小道具、音響、メイク、広報まで、外部からの招へいなしに全て学生たちだけでこなす。「万絵巻」のパワフルな活動ぶりと自身の学生演劇への思いを、代表の岡﨑正典さんに語ってもらった。

岡﨑 正典──おかざき まさふみ
■1987（昭和62）年、神奈川県生まれ。桐蔭学園高等学校卒業。総合情報学部3年次生、演劇サークル「万絵巻」代表。

劇団万絵巻公演「六畳一間のワンダーランド」

「万絵巻」の特徴は何かと聞くと、「自由と若さ」という答が返ってきた。

なにしろ、千里キャンパスにある演劇サークルに比べると歴史が浅い。高槻キャンパスは1994年生まれ。「万絵巻」もその創生期から活動を続け、中にはプロの俳優になった卒業生もいる。「創生期から、特定の個人や組織の真似はしないと決めて活動してきたと聞いています」手探りの中から少しずつ方法を作り上げ、独自の創作方法が築きあげられていった。今の「万絵巻」があるのは、そうした先輩たちのおかげだ。

自由とは、役者たちがジャンルに縛られず、何でも演じられるということ。また同時に、誰が台本を書いてもいい、という自由もある。既存のシナリオは使わない。最近は脚本を書きたいという人が増えてきた。自分の思いが形をなし、舞台の上で演じられる喜びが感じられるからだろう。

岡﨑さん自身が、何をきっかけとして芝居に目覚めたのかを聞いてみた。はじまりは何と3歳の時。幼児教室の学芸会で舞台に上がり、楽しさを知った。中学校3年の時には、文化祭の芝居が取りやめになったのが寂しく、演じるのが好きだと改めて気づいたという。地元神奈川県の高校時代には、脚本にも挑戦した。

「万絵巻」では演出・脚本・役者と3つの仕事をこなす岡﨑さんだが、それぞれに喜びや苦労がある。「どの脚本、役者を使い、どんな照明・音楽で芝居を作り上げるか、全てを決めるのが演出家。イメージ通りの芝居を作る喜びを経験できます」演出によって、同じ芝居でも全く雰囲気が違うものになる点が面白いという。反面、部員の気持ちを一つにまとめ上げる苦労があり、煩瑣なスケジュール管理もついて回る。

一方、役者の喜びと苦しみは、表現することそのものにあるという。「自分に“こう演技したい”というものがあって、それができなかった時は、本当に苦しい。どうしたらいいのだろうと悩み、自分の演技をビデオで見るのですが、自分自身と対決させられる恥ずかしさ、苦しさ。それがつらいですね」納得できる演技のためには、自分と向き合わねばならない。しかし、自分の演技に納得できた時、あるいはそこまでいかなくても解決の糸口が見つかった時は、本当に喜びを感じる。その達成感は、自分ひとりでも、仲間と共に表現していても同じという。

「脚本の苦労は？」と聞くと、「締め切りが一番早いこと。台本がないと芝居ができませんから」と笑った。脚本の質を高めるためにプロの作品も勉強し、ノウハウを盗む。自作品のレベルアップを感じる瞬間は、素直に嬉しい。

現代は、バーチャル体験全盛の時代だといわれる。映画、インターネットなど様々なメディアがある中で、芝居のどこに惹かれるのか？「身体とことばだけで、何でもできるのが演劇。表現の可能性を体感できます」この夏、他大学の演劇サークルのメンバーと、1週間でゼロから芝居を作り上げる企画を立てているのだという。何が飛び出してくるのか全く予想もできないところが楽しみだ。

現在3年次生。そろそろ将来の進路を決め、後輩に「万絵巻」をバトンタッチする時期がやってくる。伝えたいことは山ほどあるが、まず自分で行動することの大切さを実感してほしいと思う。ただ待っていても、誰も教えてくれない。岡﨑さんも、多くの先輩たちからそのことを学んだ。後輩たちに伝えたいことは、結局、「自分がやらなければ、何も始まらないよ」というひと言だけだ。

全身全霊をかけ発掘と研究に邁進する

「考古学は蓄積の学問であり、勉強こそ総て」橿原考古学研究所、第5代目所長に就任

◉橿原考古学研究所所長
菅谷 文則 さん ―大学院文学研究科 1967年修了―

「飛鳥美人」で有名な高松塚古墳（奈良県明日香村）の壁画や、藤ノ木古墳（斑鳩町）の金銅製馬具発見など、歴史を塗り替える数々の発掘調査に携わってきた橿原考古学研究所（以下、橿考研）。今年4月1日、その第5代目所長に菅谷文則さんが就任した。その菅谷さんの人生に大きく影響を与えたのが、橿考研の初代所長であり、関西大学文学部の教授だった末永雅雄先生。恩師の教えは今も菅谷さんの中に脈々と受け継がれている。

菅谷 文則──すがや ふみのり
■1942（昭和17）年、奈良県生まれ。関西大学大学院修了。1968年奈良県教委文化財保存課技師に採用され、1974年県立橿原考古学研究所研究職技師に。飛鳥浄御原宮跡や法隆寺、唐招提寺など多くの発掘調査に携わる。1995年 滋賀県立大学教授に就任。2008年春に退職し、同大学名誉教授に。日本学術会議連携会員。日本考古学協会理事。

中国での発掘風景（1998年6月）

菅谷さんが通った畝傍高校には考古室があった。展示されている遺物を面白そうだなと思ったのが、考古学への意識が芽生えた瞬間だ。高校1年生から橿考研で勉強をはじめ、2年生のとき、初めて発掘調査に参加した。「当時は高校生も発掘調査に使って貰えました。卒業する頃には今の大学生の総経験よりも多くの経験をしていたのでは」そしてこの橿考研で、菅谷さんの生涯の恩師となる初代所長・末永雅雄先生に出会った。

大学受験をした菅谷さんは国立二期校に行くつもりだった。「当時、関西大学の教壇に立たれていた末永先生が、ある人を通じて『菅谷君は合格しているのに手続きしてないじゃないか』と言われたのです。家は豊かでなかったので、家族会議を開き、兄に費用を出してもらい関西大学に行きました。末永先生のお声掛けがなかったら行ってなかったのではないかと思います」

末永先生にはよく怒られた。「ゼミの発表中、私は『え～、あの～』と言ったり、頭を掻いたりしていました。先生はノートに正の字を書いてその回数を記録し、一切止めろと厳命されました。先生は怒り出すと2時間くらい平気で怒る。それは怖かったですよ。立ち居振る舞いに厳しい先生で、お辞儀の仕方も注意されました。私たちは人間教育をしていただいたのです」

真面目な学生で、片道2時間半かけて通学し、朝早くから研究室に行き、夜遅くまで本を読み勉強した。そして、和歌山にある岩橋千塚の発掘調査に没頭した。「4年間のうち600日は和歌山にいました。今でも和歌山の方言をしゃべれるくらいです」

橿考研に勤めてからは、飛鳥の宮殿、法隆寺、唐招提寺などの発掘に携わった。印象深い調査のひとつである法隆寺には、聖徳太子が建立したという説と焼失し再建されたという説があり、約100年前から物議を醸していた。発掘範囲が狭く何があるのか予想のつく古墳に比べ、寺の跡はどこに何があるのかわからず、小さな手がかりを元に発掘を進める。「ある日閃いたのです。4本の柱穴と3本の柱穴は連結するのでは、と」古代の寺や宮殿は必ず四方が直角で、周囲には区画壁となる柱が数百本並んでいる。調査員3人で図面整理をし、2カ所の柱穴列に三角定規を当てると直角に交わった。現在の輪郭とは異なる法隆寺跡が現れ、寺は一旦潰れたという証明になった。「考古学は演繹（えんえき）10％に帰納90％。直角になると思ってはいたが、図面上で証明しなければ。このときばかりは心の中で喝采しました」

橿考研の新所長として、調査にも強く研究を反映し、小さな遺跡の発掘も研究であることを忘れず行う。着任の際、職員にはまず礼儀作法を訓示した。今の学生に対しては―。「アルバイトはするな。社会勉強は会社に2週間も勤めれば十分です。死ぬほど勉強してください」これも末永先生から受け継ぐ教えのひとつだ。考古学は蓄積の学問であり、勉強こそが総てだ、と。「あと30年楽しい人生が送れるのなら、学生時代の4年間を一生懸命勉強した方が得に決まっている。これは私の人生観です」

■研究最前線

ラテンアメリカの歴史や文学の継承を研究

詩の発展を通して世界を捉える

スペイン語を介するふたつの地域関係に迫る

◉外国語学部
鼓 宗 准教授

ラテンアメリカは、16世紀に植民事業が達成されて以降、独立する19世紀初頭まではスペインであったとも言える立場にありました。外国語学部の鼓宗准教授は、スペインとラテンアメリカの長い歴史を背景に、そこから発展した文化や文学について幅広く研究しています。なかでも、詩をはじめとするラテンアメリカ文学の魅力について、話を聞きました。

■スペインとラテンアメリカの影響関係

――スペイン語圏のアメリカで書かれている文学をラテンアメリカ文学と捉えて話しますが、スペインとラテンアメリカ文学の関係は？

ラテンアメリカの文学に独自の主義主張が出てくるのは宗主国スペインに対する反発やフランス革命の影響も強く残る19世紀ロマン主義の時代から世紀末にかけてです。面白いのは19世紀末、詩の分野にモデルニスモ(モダニズム)が現れ、スペインの詩に対して強い影響を与えたことです。モデルニスモはニカラグアのルベン・ダリオやキューバのホセ・マルティなど、優れた詩人たちにより展開され、彼らの詩に刺激されたスペインの詩人たちが新しい詩を書き始めたのです。

20世紀初頭にモデルニスモは陳腐化し、その中からスペインに新しい息吹を持ち込んだのがチリの詩人ビセンテ・ウイドブロです。彼はフランスを中心とした前衛主義の詩に強く呼応し、イタリアの未来主義に反発するなどして、創造主義(クレアシオニスモ)という独自の手法を編み出し、スペインの若い詩人たちに強い刺激を与えました。モデルニスモまでの詩が自然を讃美するものであったのに対し、ウイドブロは「詩の中で自然を唄うのではなく、自然そのものを作り出すのだ」と述べており、言葉による新たな世界を創造しました。ウイドブロの代表的な詩集に『四角い地平線』というものがありますが、これも言語の中でしか存在しえないものの創造と言えるでしょう。当時のラテンアメリカ文学の世界は小さく、文学的な営みは都心のみの保守的な傾向の中、彼はラテンアメリカからマドリード、パリをも拠点に仕事をしています。また、画家であるパブロ・ピカソやファン・グリスたちとも交流があり、非常にコスモポリタンな人物だったと言えます。

これらのことからもわかるように、ラテンアメリカとスペインには相互的な影響関係があると言えます。大西洋を挟む距離的な隔たりのあるふたつの地域は、スペイン語を介在することにより、我々が考えるよりも近いものだったようです。

ペルーの玩具(左)とサンティアゴ巡礼の記念品(右)

■幻想的な要素の多いラテンアメリカ文学

――ラテンアメリカ文学の特徴は？

魔術的リアリズム(マジックリアリズム)がひとつのキーワードです。私たちの日常(近代的なヨーロッパ社会)の中ではフィクションとしてしか起こりえない事柄がラテンアメリカの現実の中に息づいており、文学作品の中で語られています。その典型的な例として、ガブリエル・ガルシア＝マルケスの作品がよく挙げられます。土の壁を食べる少女の話などがあり、これも彼の妹が実際に土壁を食べたという事実があるようです。

土着的な要素の強い中南部に対し、アルゼンチンなど南部の文学は知的で観念的です。その代表的な作者がホルヘ・ルイス・ボルヘスであり、長編にできるようなアイデアを凝縮して多くの短編を書き、次々と新しい世界の姿を垣間見せています。彼の作品に地図を作る話がありますが、どんな地図かというと実物の町と同じ大きさなのです。現実の世界を語るための語り口ではなく、世界がいかなる形にありうるか、形而上学的な可能性を提示してみせる面白い作家です。

このように幻想的な要素がラテンアメリカ文学の大きな特徴であり、20～21世紀にかけて、スペイン語圏だけでなく他の言語圏の読者を持つことに至った理由なのではないでしょうか。

――詩はラテンアメリカ文学において重要な位置にあるのですね。

日本において詩は遠い存在のようですが、百人一首や歌も詩のひとつの在り方です。スペインでは日本に比べると驚くほど詩が読まれています。詩は特殊な形態の言葉である一方、言語を豊かにもしてくれます。実学だけで世の中を見るには不完全であり、詩という媒介を経て世界を捉える感覚は、理知的なものだけで捉える世界よりも広いのではないでしょうか。詩を読むことの蓄積により、物の見え方や捉え方、考え方は変わっていくのです。

(左上)ディエゴ・リベーラによるメキシコ政庁壁画
(右上)マドリードの目抜き通り、グランビア
(中央)ローマ時代の遺跡、セゴビアの水道橋

■ラテンアメリカ文学の普及について

――授業では、スペイン語圏の文化や文学の奥深さをどのように伝えているのですか？

歴史をはじめ、絵画、美術、建築、料理の話など、スペイン語圏の文化について広く紹介しています。一見、文化とは関係ないように思えるジャンルでも、歴史や文学の継承があってはじめて存在し得るのです。例えば、アントニ・ガウディやルイス・バラガンなどの建築物。それらはバルセロナやメキシコの街並みの一部を作っていますが、すべてではありません。また、私達が食べているトマトやジャガイモ。これらはアメリカ大陸からヨーロッパへと渡ったものであり、背景には植民の歴史があるのです。学生それぞれの関心、食指が動くテーマは違うはずです。私自身、スペイン語に関わるようになったのはメキシコ壁画に関心を持ったことがきっかけです。まず、さまざまな角度からスペイン語圏の国を知ってもらい、ラテンアメリカ文学を読みたいという動機やスペインという国についての関心を持って欲しいと思っています。

■研究最前線

結晶化により光学活性アミノ酸を得る研究

キラル分子の効率的な分離法を探求

安価な医薬品等の開発に貢献

◉化学生命工学部
矢島 辰雄 助教

医薬品や化粧品などを合成するための原料として用いられる非天然アミノ酸は、各業界から低コストでの供給が望まれています。多くの研究者が不斉合成や酵素法による調製の研究を進めているなか、化学生命工学部の矢島辰雄助教は、結晶化を用いることで抗がん剤の原料を作る際に重要なD-アロイソロイシンを、安全に、安価に、効率よく調製することに成功しました。

■光学分割法を用い、光学活性体を分離

――まず基本的な質問ですが、キラル分子とは？

見た目は同じに見えるけれど空間的な位置関係が違い、例えば右手と左手のように重ね合わすことができない2つの分子のことをキラルな分子と言います。アミノ酸の場合はL体―D体が左手―右手のような関係になっており、通常、体内ではL体が使われています。皆さんが食事から摂るたんぱく質もアミノ酸からできており、そのほとんどがL-アミノ酸からできています。

キラルな分子は同じ物理的・化学的性質を持っていますが、体内では違うものとして認識され、異なる働きをします。そのまま使うと一方は良い働きをするけれど、もう一方は全く使えない、ともすると害になるものもあります。アミノ酸をはじめ、光学活性物質は医薬品や化粧品などに多く使われます。その際、体に良い作用をする方を使わないと悪影響が出るため、完全に分けて使う必要があり、その「分ける」という作業を化学的に行い、使えるものだけを純度よく、効率よく取ろうというのが私たちの研究です。

――キラルな分子を一方のみ優先的に取り出すには、どのような方法があるのですか？

不斉合成の研究が盛んに行われています。これは入手可能な光学活性体から、必要な光学活性体を100％作る方法ですが、効率が悪いことから大量な合成が非常に難しく、また大変高価なものになってしまいます。

それに対して私たちは、光学分割という方法を使っています。まずキラルな分子が50％ずつ混じったラセミ体を調製し、そこから必要な光学活性体を取り出します。比較的安いコストで合成できるため、それを原料とする医薬品や化粧品、農薬などが従来の方法よりも安価で作れるようになります。

光学分割には、①優先晶出法 ②置換晶出法 ③ジアステレオマー法 ④抱接現象の利用 ⑤クロマトグラフィー法 ⑥酵素法などがあり、そのうちの①②③が結晶化により効率的に大量に目的とする光学活性物質を得る方法です。また、不斉転換により必要な光学活性体を得る方法もあります。

――具体的な工程は？

物質は溶解度が決まっており、水などに溶かしていくとある量で溶けなくなります。キラルな分子は物理的・化学的な性質が同じなので溶解度も同じですが、少し違う形にすることで溶解度に差ができます。この差を大きくして物質に水などを加えると、一方は溶け、もう一方は溶け残ります。必要な方を溶け難くし、それを取り出し再度元の形に戻せば、純粋な光学活性物質が取れます。物質によってどういう形にすべきかは違い、どんな方法で溶解度に差を出すのかが重要となります。

■非天然アミノ酸を調製し、医薬品等の開発に貢献

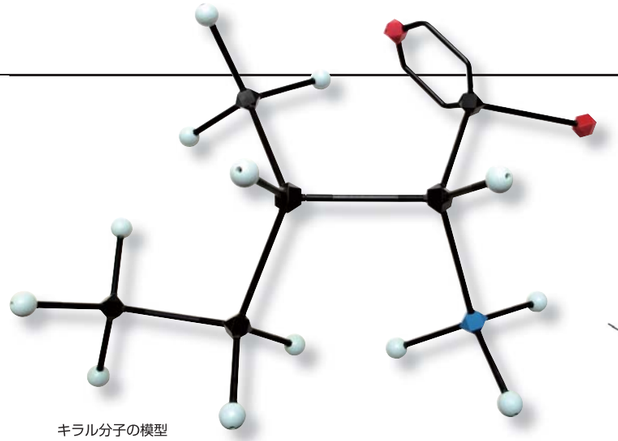
――光学活性体のなかでも、アミノ酸に着目されていますが。

アミノ酸は食品添加物、医薬品、化粧品などの原料として様々なものに利用されているため、特にアミノ酸に重点を置き、その光学分割法を開発していけば、様々な分野に貢献できると考えています。たとえば、医薬品にはD体のアミノ酸を多く使います。通常体内にあるL体を使うと薬はすぐに分解されてしまいますが、体内に無いD体を使うことで分解されずに残すことができ、効率よく効くからです。天然のアミノ酸としてはほぼL-アミノ酸しか取れないため、このように非天然であるD-アミノ酸が必要な場合は工業的に作る必要があるのです。この時、低コストで大量に作るには化学的な方法が適しており、このような背景により多方面からの要望も受けています。

――「L-イソロイシンからのD-アロイソロイシンの調製」について。

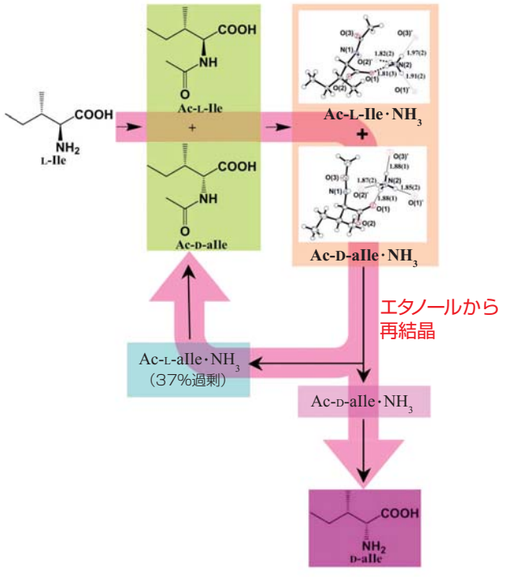
非天然アミノ酸 D-アロイソロイシンは、抗がん剤などの薬を作る際の出発物質の原料として使われます。私たちはL-イソロイシンから単純な方法で調製・分離可能なことを見出し、結晶化による簡単なD-アロイソロイシンの調製に成功しました。

D-アロイソロイシンの調製には、天然から大量に取れるL-イソロイシンと有機合成に使う安価な試薬を使いますが、最終的には比較的高価なものが得られます。有機合成では高価で特殊な試薬を使って研究するケースも多いですが、この研究ではなるべく一般的で、安価に、工業化する際も簡単に量を増やすことができる効率のよいものを使っています。また、環境に影響を及ぼすものはなるべく使わないことも心がけています。



キラル分子の模型
D-アロイソロイシン（D-aIle）

▼「L-IleからD-aIleの調製」方法



■金属イオンを使用し、さらに効率のよい調製法へ

――その他の研究と今後の展開は？

これまではD-アロイソロイシンの調製を代表例とするように、溶解度の差を利用して目的光学活性体の結晶化を、有機化学的な手法で研究してきました。それとは違う新しい光学活性体の調製法を目指すものとして、金属イオンを使った研究「キラルな配位子を用いた金属錯体によるアミノ酸のキラル認識」も進めています。溶液中においてL体とD体のアミノ酸への結合力が異なる金属錯体を作り、溶液中で結合するアミノ酸としないアミノ酸を分離することを目指しています。

また、このことを基に、ほぼ全てのアミノ酸が分けられるといった汎用的に分離が可能な膜や、キラルな分子の50％ずつの混合物であるラセミ体を、必要とする光学活性体100％へと変換できる金属錯体の開発へと発展できればと考えています。

結晶を分析する実験装置の先端

Topics ■トピックス［学内情報］

史実と史論の対話と相互補完の促進

ペリーの旗艦に登った
松陰の「時間」に迫る

ポウハタン号の航海日誌に見た下田密航関連記事について

今年2月、文化交渉学教育研究拠点リーダーの陶徳民教授が、ワシントンDCのアメリカ国立公文書館が所蔵するペリーの旗艦の航海日誌の中から、吉田松陰の下田密航に関係する重要な記事を発見しました。これは下田密航の全容解明、および新しい松陰像の形成にとって重要な意味をもつ発見です。この記事により明かされた時間的史実や松陰像について、陶教授に語ってもらいました。

吉田松陰
写真提供：毎日新聞社

文化交渉学教育研究拠点リーダー
陶 徳民 教授

「時間をめぐる異文化交渉の視点から開国史を再考する新たな研究のきっかけになることを期待したい」

◉吉田松陰の下田密航に関する記事を発見

今年2月9日、アメリカ国立公文書館で海軍省関係のアーカイブに関する調査を行い、ペリーの旗艦ポウハタン号の航海日誌第2巻(1853年9月11日-1854年9月7日)1854年4月25日のページから、吉田松陰の下田密航に関係する記事を見つけました。記載者はポウハタン号の艦長W. J. マクルーニー大佐であり、記載内容と私の日本語訳は次の通りです。

Remarks of This 25 Day of April 1854
Shimoda
Commences at 2.45 two Japanese came on board by a small boat, remained about 3/4 of an hour, on getting aboard their boat got adrift & they were sent ashore in the S' (Steamer' s) cutter by order of the Commo.(Commodore).※
※括弧中の内容は括弧直前の略式表現を解読した結果

下田
(午前)2時45分、二人の日本人が小船で乗艦してきて、約45分間滞留した。乗艦した際、彼らの小船が漂失したため、提督の指示で本艦の小艇で岸辺へ送還された。

下田密航の際、松陰とその従者、金子重輔がいつペリーの旗艦に登り、どのくらい艦上に滞留して送還されたのかは、長い間謎でした。この記述は、何時何分という細部まで確定できる非常に貴重な史料です。

◉日米間の異なる時制や時間観念について

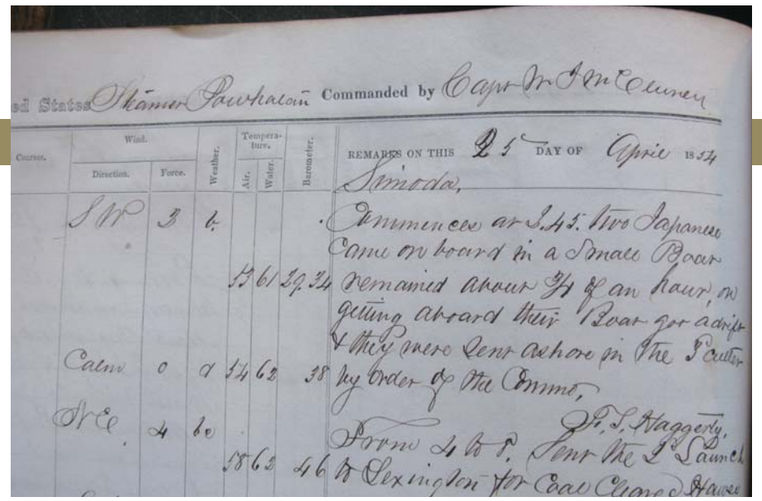
現代の感覚なら、西暦4月25日未明に起きたこの事件を和暦で記載する場合、3月28日のことになるはずだが、しかし、密航失敗後の松陰は『回顧録』でそれを「三月二十七日夜」の行動として記録しました。江戸時代では一般的に午前零時ではなく、夜明けをもって一日の始まりとしていたからです(午前零時をもって日の変わり目とする習慣は1873年元日をもって太陽暦が採用され、一日を24時間に分割する定時法が施行されてから次第に根付いていったという)。それだけでなく、昼夜それぞれを六等分する不定時法を使っていた当時の日本では、一単位時間(「一時」＝平均的には2時間前後)の長さも西洋と違うし、しかも季節によって変動していました。とは言え、時間観念の厳密化につれて、「一時」に対して、「半時」(＝1時間)、「四半時」(＝30分)というような表現も生まれました。

上記した密航の二日前の4月23日未明に、二人も「鮑厦旦舶」(ポウハタン号)を狙って密航を図りました。「武山の下海岸に露坐し、夜八ツ時に至る。夷船中時鐘を打つ。彼れの一時は吾の半時、故に是を以て時を知ることを得」という日記を見れば、松陰は日米間の時制の違いをはっきりと認識していたことがわかる。また、4月25日未明の旗艦上の一場面として、「時に鐘を打つ、凡そ夷舶中、夜は時の鐘を打つ。余曰く、日本の何時ぞ、ウリヤムス指を屈して此れを計る。然れども答詞詳かならず〔割注：此の鐘は七ツ時なるべし〕」と記し、ペリーの首席通訳官S.W. ウィリアムズの尋問を受け、やりとりが最終段階に入ろうとした時間を「七ツ時」と推定しました。

1854年4月25日下田における「日の出」時間で計算すると、「七ツ時」の始まりが約3時14分になります。とすれば、松陰が野山獄で書いた『回顧録』における記述は、3時30分に送還されたというマクルーニー艦長の記載と合致しています。このことから、少年時代より萩藩の兵学師範(軍事教官)として育てられ、江戸において蘭学の師、佐久間象山の薫陶も受けた松陰の厳格な時間観念と優れた記憶力が裏付けられたと言えるでしょう。

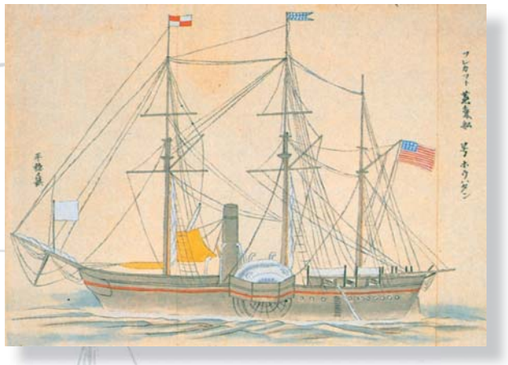
◉松陰の「知の冒険」を通じ、現代の若者へ

下田密航事件は、日米和親条約締結の24日後に起こりました。幕府との信頼関係が損なわれるおそれがあるため、ペリーは松陰を連れていくことができませんでしたが、松陰の知的好奇心を非常に高く評価し、このような若者がいるのならば、将来、日本は先進国への仲間入りがきっと実現できるだろうと述べています。当時、松陰は25歳未満。脱藩遊学で武士の身分と俸禄を失っており、密航に成功し、海外で勉強して戻って国に役立つことができれば、地位も俸禄も回復できるという希望もありました。松陰の「知の冒険」―鎖国の禁令を犯してまで海外密航を敢行した勇気を知ることが、今の若者への刺激となるだろうと思います。裕福な現代社会の中、若者たちにはこの好条件をもっと活かし、より高い目的を持ち、自己形成をし、松陰のように己の探求したいことに全力投球して欲しいのです。



ポウハタン号の航海日誌第2巻　1854年4月25日のページ

ペリー 東インド艦隊司令長官
写真提供：毎日新聞社



ペリーの旗艦ポウハタン号　写真提供：毎日新聞社

◉史実と史論の対話

松陰は、伊藤博文や山県有朋など近代日本の創始者たちの師としても注目される国民的英雄であり、彼に関する研究の目録自体が一冊の本になっているほど膨大で、そこに新しい知見を加えるのは非常に難しいことです。しかし、今回の発見が示しているように、視野を海外に残存する関連史料に広げれば、新しい知見の獲得は決して不可能ではありません。要するに、「日本」の歴史は最初から「外部」との不断の接触の中で形成されているものであり、近代「開国期」の歴史は特にそうなのです。海外で「日本」を再発見するというアプローチがこれからの日本史研究の一つの方向になれるかもしれません。そして、場合によって、今まで見逃されてきた重大な史実の発見が、従来の歴史理論や概括への修正を迫るということもあり得ます。だからこそ、史実と史論の対話が重要であり、その相互補完を促進する立場で研究を続けていくことが歴史家の責任であります。

高等学校と大学の深い絆「高大連携」

大学と地域社会が相互に支え合う未来へ

Interview

良永康平 高大連携センター長
山本冬彦 学校インターンシップ取組責任者

関西大学では、地域と連携し社会に貢献することを大きな柱のひとつと考え、次世代の育成を目的とする高大連携事業を推進している。高校生が「大学への学び」に直接触れられる出張講義や公開授業をはじめとする各種セミナー、本学の学生が学校現場での教育補助を通しキャリアデザインを行う学校インターンシップ、小・中・高校等の先生方への夏期教員研修など、その幅広い事業内容について、高大連携センター長 良永康平教授と学校インターンシップ取組責任者 山本冬彦教授に話を聞いた。

高大連携事業について語る、良永康平教授（左）と山本冬彦教授

▶大学の授業を高校生が体験

――セミナー事業の目的について。

良永　セミナー事業には、本学の先生が高校に出向いて講義する「Kan-Dai 1セミナー」、高校生が本学を訪ね大学生の授業に参加する「Kan-Dai 15セミナー」、テーマに沿って複数名の講師がリレー講義を行う「Kan-Dai ネックレス・セミナー」、夏（春）休み等を利用した短期集中型の「Kan-Dai 3セミナー」などがあります。とくに「Kan-Dai 1セミナー」の受講を希望する高校は年々増加しており、2008年度は年間延べ372校にのぼります。また、今年度の提供可能講義は190タイトルになりました。他のセミナーも徐々に拡大中です。大学が求められている社会貢献の一環にこれらのセミナーがあり、高校生に実際に大学の授業を受けてもらい、学問とはどんなものなのか、大学でどんなことが勉強できるのかを知ったうえで、将来や進路を考えてもらうことが目的です。

WEB

▲WEB配信
（左）：システム理工学部 電気電子情報工学科 大橋俊介准教授「電気自動車が省エネ社会を実現する日」
（右）：文学部 田中俊也教授「おもしろ心理学ゼミナール」

――新しい展開であるWEB配信とは？

良永　今年度は動画による体験授業のWEB配信をスタートします。これまでは先生の出張が近畿圏に制約されており、セミナーを受講できる高校生が限られていました。体験授業をWEB配信することで、遠方の高校生も大学の学びに触れることができ、クラブ活動などで忙しい高校生も自分のあき時間に観ることができるようになります。まずは5つの授業の配信を開始し、徐々に広げていく予定です。

Kan-Dai 1

▶期待を担う学校インターンシップ

――2005年、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択された学校インターンシップとは？

山本　学校インターンシップは学生が大人になっていく新しい仕掛けの場であり、社会連携の模索でもあります。この制度は2003年、大学と近隣の府、政令都市の教育委員会が包括的な連携協定を結び、高校に学生を派遣することからスタートしました。当初は希望する学生が87人、受け入れ高校は38校。その後、学生からの要望により、吹田市や豊中市の小・中学校への派遣も実現しました。現在では毎年約200人の学生が参加し、受け入れ希望学校は約1000校。受け入れ待ちの学校も多くあります。

ボランティアと違ってインターンシップは研修なので、学校に行く学生に対して事前に学校業務講座、ビジネスマナー講座、面接などを行います。インターンシップ中の学生は業務日誌を書き、担当の先生のコメントをもらい、それを大学で評価し単位を出す、という流れです。短期型・長期型があり、前者は大学が休みで小・中・高校が授業・活動をしている7月下旬～9月中旬に毎日通い、学園祭の補助、夏休みの補習の補助などを行います。後者は秋学期（9月下旬～12月下旬）の授業の合間に自分で学校と時間調整し、週に1～2回、学習補助や進路指導補助、クラブ活動の指導などを行います。

――当制度の特色は？

山本　教員志望でなくても参加できるという点が一番の特色です。いろいろな人が学校現場を見ることは大事です。学校側としても、将来親になったときに学校の先生のことや業務の様子を理解してくれていればありがたい。実際、政治家になりたいから学校を見ておきたいという学生なども参加しています。

また、今の学生は教員を志望していても自身が適しているのかわからない場合があり、学生にとっては進路を見極める機会になります。逆に自分が教員に向いてないことがわかるというのも大事なことです。受け入れ学校側からも、学生が入ってくることで現場の様子が変わる、教員高齢化の中で若い力が入ることのすごさを実感した…と評判は良好です。

良永　学校現場は教科を教えるだけで手いっぱいです。それ以外の課外活動、学習のアドバイス、進路指導、学校行事の補助…といった場面で大学生は非常に役立ちます。大学生にとってもその経験が人生に役立ち、お互いのニーズが合致しているのです。

Kan-Dai 3

「Kan-Dai 3セミナー」文学部で開催された考古学ウィークエンドセミナー

▶高大連携から地域社会との連携へ

――その他の活動やこれからの展望は？

山本　大阪府教育委員会・大阪市教育委員会からの依頼により、小・中・高校等の教員向けに夏期教員研修を行っています。教員の知識を広めるための教養講座として、受講する先生方からも非常に興味深いという声を頂いています。

良永　今後は高校や教育委員会との連携事業や併設校との接続に加え、地域社会との連携にも力を入れていきます。これから関西大学は4キャンパスになり、堺市や高槻市との連携のなかで、高大連携も必要となってきます。地域と教育の活性化は一体のものなのです。

山本　大学が地域に対してどういう連携や手伝いができるのかは大きな課題です。例えば商店街の活性化や地域の課題について、教員や学生が出向き、手伝いをしたり研究課題にするなど、可能性がある限り双方を繋いで教育の場を生み出すことは、学生にとってもよいことです。大学の中だけで教育するというのは閉じた関係です。今、社会に対して様々な発信をすることが、大学の第3の使命なのではないでしょうか。

良永　高大連携事業の実施による手応えも出てきています。学校インターンシップに参加して満足していない学生のフォローを含め、出てくる問題をどう解き明かすかが次のステップです。

■社会貢献・連携事業／地域連携

上海万博に「豊臣期大坂図屏風」復元画を出展

4月27日、千里山キャンパスで大阪府と大阪市等による「上海万博大阪出展実行委員会」が開催され、2010年の上海万博で、第1学舎に展示中の陶板画「豊臣期大坂図屏風」を最新の複製技術を用いて再現して出展することが決まった。当日の記者会見では、本学から河田悌一学長と高橋隆博博物館長が出席。歴史的価値の高い貴重な資料とされている屏風絵の説明を行った。

連続市民講座・町街塾を開講

関西大学と天神橋筋商店連合会、大阪市信用金庫などが共催する「町街塾」の初講座が2月18日、大阪天満宮会館で開かれた。同講座は住民自らが街の在り方を再発見し、元気な大阪を取り戻そうと企画された。第1回は落語家の桂福団治さんが「上方に学ぶ芸能作法」と題して講演した。

3大学共同学部の開設延期について

関西大学、大阪医科大学、大阪薬科大学は、来年4月に開設予定だった3大学共同の新学部について、開設を延期すると発表した。文部科学省が大学設置基準の内容を、当初の見込みより厳格化したことが背景にあり、計画の大幅な見直しが必要となった。関西大学と大阪薬科大学は、2011年春に3大学共同を前提とした新学部を開設し、2015年春から大阪医科大学も参加する。

コミュニケーション・マークとタグラインを策定

関西大学は4月から、本学ブランドのさらなる価値向上を目指し、新しいコミュニケーション・マーク「Global 'KU'」とタグライン「THINK × ACT」(シンク・バイ・アクト)を策定した。これらは、昨年7月に策定した関西大学の将来像を示す長期ビジョン『KU Vision 2008-2017』が目指す方向性、"社会を見つめ、変化に挑む。「考動」する関大人が世界を拓く。"を端的に表現している。今後、本学の価値を感覚的に伝え、望ましいイメージを醸成するブランディング・デザインとして活用される。

◀コミュニケーション・マーク
"「考動」する関大人が世界を拓く。"をコンセプトとし、地球をK、U2つの文字で形作り、「考動力」を身につけた関大人が世界を拓く様子を表す。

THINK × ACT

▲タグライン
関大らしい、ダイナミックで行動力のある知識人の育成を謳う。
「考動」すなわち思考と行動の相互作用、シナジー効果を意味する。

大屋翼さんがヴィッセル神戸に入団

©ヴィッセル神戸

今春、文学部卒業の大屋翼さんが、サッカーJ1ヴィッセル神戸に入団した。念願の入団に際し、「大学の4年間で人間的に成長できたことは、選手生活のプラスになるはず。レギュラーを目指して頑張る」と飛躍を期する。

大屋さんは鳥取県岩美町生まれ。人気サッカー漫画「キャプテン翼」にちなんで命名され、5歳でサッカーを始めた。180㎝、74kgの左サイドバック。的確なポジショニングと1対1の強さが持ち味で、長短距離のパスも評価が高い。大学時代には、ヴィッセル神戸の特別指定選手に選ばれて経験を積み、主将として約160人の部員をまとめた。

関西大学北陽中学校開校に向け生徒募集活動を開始

関西大学は、2010年4月からの関西大学北陽中学校(設置認可申請中)開校に向け、生徒募集活動を開始した。開校予定地は大阪市東淀川区上新庄(北陽高等学校隣地)。入学定員は120名。新中学校設置は、昨年4月に北陽高等学校が「関西大学北陽高等学校」に生まれ変わったことに伴い計画され、学習、クラブ、生活等全ての面において中心的な役割を担って活躍する生徒を育て、中・高・大の10年間を見据えた一貫性のある教育を通じ、社会の中核を担い、地域貢献や国際貢献のできる人材を育成することを目的とする。

「関西大学学長表彰」第1号に名切卓男氏

名切卓男氏(左)と河田悌一学長

今春、関西大学は正課または課外諸活動において顕著な功績を収めた学生を称えるための「学長表彰」制度を創設した。受賞者は、現役の技術者として働きながら2008年、本学大学院において61歳で博士号を取得し、環境に優しいエコ電線の開発で、電気系の国際学会IEEE(米国電気電子学会)から最高賞に選ばれた名切卓男氏。名切氏は関西電力に勤務するかたわら、田實佳郎教授の下で研究を開始し、既製品と変わらない性能があり、自然の中で分解されるこの電線を開発した。4月21日の学長表彰受賞に際し名切氏は、「好きなことを続けて認められたのは、技術者として幸せ」と喜びを語った。

高槻新キャンパスの名称が決定

3月30日、2010プロジェクト推進委員会において、高槻新キャンパスの名称が"関西大学 高槻ミューズキャンパス"に決定した。新キャンパスが所在するJR高槻駅北東地区のタウンコンセプトが「ときめきタウンMUSE(ミューズ)高槻」であり、地域連携に合致すること。また、MUSEは学芸の女神を意味し、museum(ミュージアム)の語源であり、amusement(楽しみ)やmusic(心地よい響き)にも通じることから、大学、教育・研究機関のネーミングとしてふさわしいことが決定の理由である。

関西大学小中高一貫教育シンポジウムを開催

2010年4月開設予定の高槻ミューズキャンパスは、新しい小学校・中学校・高等学校による新たなコンセプトの小中高一貫教育を目指す。その小中高の「新しい学び」のスタイルを紹介し、一貫教育の意義について考えるシンポジウムが、4月25日に千里山キャンパスで開催された。基調講演は作家の重松清氏による「ことばの力〜子どもたちの未来のために〜」。パネルディスカッションでは「これからの時代に小中高一貫教育が果たす役割」について、芝井敬司副学長がコーディネーターとなり、重松氏と関西大学の田尻悟郎教授、黒上晴夫教授、米津俊司開設準備総括が論議を交わした。

Reed KANSAI UNIVERSITY NEWS LETTER
No.17 May, 2009
発行日・2009年(平成21年)5月25日
発行・関西大学 広報室広報課
大阪府吹田市山手町3-3-35
〒564-8680/TEL 06-6368-1121
http://www.kansai-u.ac.jp/
関西大学